

いきいき安心プランⅦまっど（案） （概要）追加資料について

1.重点項目

健康寿命の延伸に向けたフレイル予防の推進

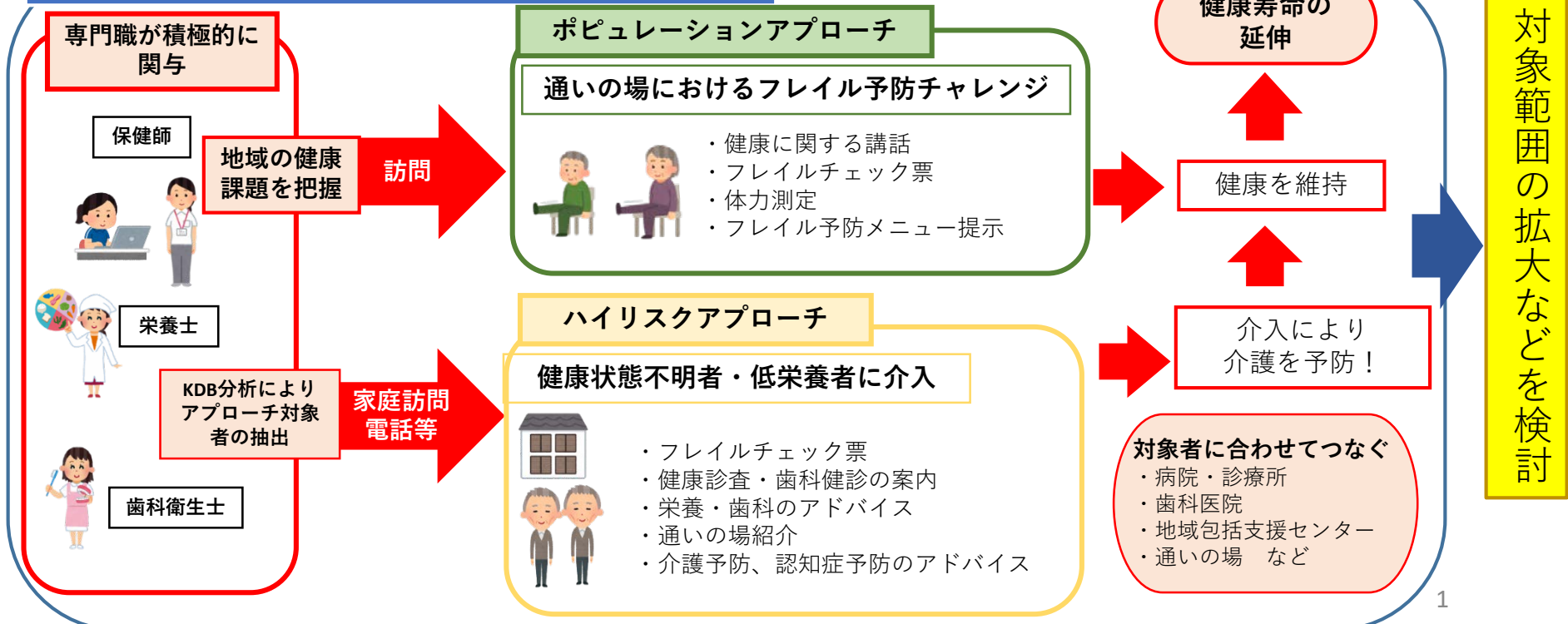
高齢者のフレイル予防の推進

介護予防・日常生活支援
総合事業の推進

都市型介護予防モデル
「まっどプロジェクト」の推進

加齢とともに心身の機能が低下し、要介護状態に至る前段階である
フレイルを予防するためには、早期からの運動、栄養、社会参加が重要

フレイル予防事業開始（令和2年4月～）



～地域包括支援センターの機能強化～

地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築するため、相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援を一体的に実施する重層的支援体制整備事業を推進し、地域包括ケアシステムの深化・推進を図ります

15か所の地域包括支援センター

属性や世代を問わない相談窓口
子ども・障害・生活困窮分野についても
相談を受け止め支援機関との連携を図る

共生の視点を持った地域づくり
地域資源の育成と有機的活用

支援機関とのネットワークを活用し、相談支援体制を構築していく

相談
報告

総合調整
後方支援

基幹型地域包括支援センター

多分野相談機関との連携強化
福祉相談機関連絡会や福祉まると相談窓口の
活動等を通じた連携強化

事業評価を通じた機能強化
各センターの事業評価分析や、好事例
の横展開を通して質の向上を図る

ICTを活用した業務の推進
会議等において積極的にICTを活用し
業務の簡素化・効率化を検討

評価指標
地域の予防活動等社会資源の
新規立ち上げ数

評価指標
松戸市指定事業
包括評価の平均点

次期計画「介護人材確保」対策の戦略について

～川の上流と下流のようにそれぞれの状態に合わせた対策が必要～

方策（１）【川上対策】
多様な就労・社会参加を促進
①女性・②高齢者・③外国人

既に我が国では人口減少が始まっており、人口構造の推移を見ると、2025年以降、「高齢者の急増」から「現役世代」である「生産年齢人口（15歳以上65歳未満）」の急速な減少へと局面が変化しつつある。【2040年問題】

方策（２）【間接的対策】
介護需要そのものを減少させる
健康寿命の延伸、介護・認知症予防

『川上』の問題
水源：下流の水不足は、源流で水源が枯渇し始めている証拠

→別の水源の開発



方策（４）【川下対策②】
介護現場の効率化・省力化
ICT、AI、介護ロボット等の活用

方策（３）【川下対策①】
介護現場の環境整備・処遇改善
社会的評価・賃金・就労環境の向上

河川改修の鉄則『下流から上流へ』

『川下』の問題
水が少ない・少ない水の奪い合い = 介護人材争奪戦
⇒ 水需要の逡減 健康寿命の延伸・介護予防
⇒ 漏水の防止 離職防止 環境整備
⇒ 少ない水（節水） 生産性向上による省力化

2 .次期計画の施策体系

